また，最初に見ていただいた患者様のように，ICPとは異なる位置で歯が磨耗し，上下の歯が咬み合う位置がありました．それが図4のような位置です．

図3

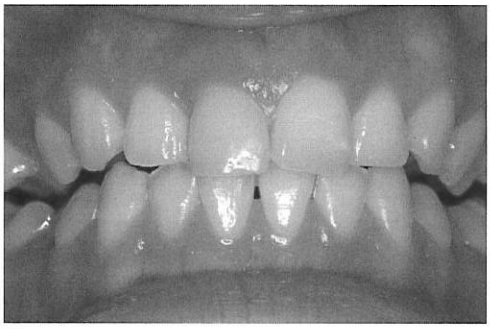

図4

ちなみに，クレンチングの徴候として頬粘膜に歯の圧痕がありました．

咬み合わせの位置は長年の生活習慣によって変化していきます．最初に紹介した患者様も，当院のスタッフも同じように下顎を後退させる生活習慣がありました．それは頬杖であったり，唇を咬む癖やクレンチングなどの生活習慣，はたまた補綴物が原因になることもあります．

咬み合わせの位置は一定ではありません．生活習慣のなかで変化するものです．

咬み合わせの位置が変化するという視点に立って患者様の歯や歯ぐきを診ていかなければ，患者様の訴えや写真に出てくる変化の兆候を見落とすことになりかねないのです．

患者様の訴えは常に正しく，その兆候は写真に出てくる．

そんな視点に立って，患者様の口腔内に目を向けてみませんか？

次回はクレンチングの傾向・所見について書きたいと思います．

お楽しみに．

書　評

沼澤秀之
（沼澤デンタルクリニック）

長期メインテナンスに強い歯科医院の院長が説く
患者さんと長くお付き合いできる歯科医院づくりのノウハウ28

著者；河野正清　杉山精一　田中正大
　　齋藤健　川嶋剛
出版；クインテッセンス出版
　　2011年7月
定価；4,410円（税込）

私の医院は2年前ヘルスケア型診療に転換を始めました．当時は「やりたい！」「やらなきゃならない！！」って意気込みだけで突っ走り，ヘルスケア型診療に一番大切なスタッフを引きずりながら走っていました．ちょうどそんなとき，著者の方々と交流をもたせていただき，はやる気持ちを抑えてスタッフの成長を見ながらの転換に変更し，実現してきた背景があります．この度この本を読んでこの2年間にいただいた本当にありがたかったアドバイスが全部詰まった本であることに驚きました．しかも内容はスタッフの採用，教育，評価から医院に必要不可欠なミーティングなどにも触れた至れり尽くせりの内容です．自分は当時先輩院長からのアドバイスに「それは医院の状況によってだいぶ違うのでは？」と腑に落ちないこともあったのですが，この本では自費中心の医院，団地の中の医院など五つの医院の院長先生の対談形式で書かれているので，医院の方針や状況によって様々な意見が読めて大変共感できます．

ヘルスケア型診療には院長先生の「やるぞ，変えるぞ！！」という思いはもちろん必要ですがチーム医療である以上一人では何もできません，チームを作る本当のコツ，スタッフとの関わり方では今までなかった参考書になること間違いなしだと思います．従来型の診療体系に疑問を感じてらっしゃる方，今まさにヘルスケア型の診療を構築しようとしている方，すでに実践し始めているが，どこかうまくいかないと四苦八苦している方がいらっしゃれば，まず読んでみてはいかがでしょうか？　自分ももう少し早くこんな本と出合いたかったと思う今日この頃です．